

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果における 校内分析から見た本校児童の様子

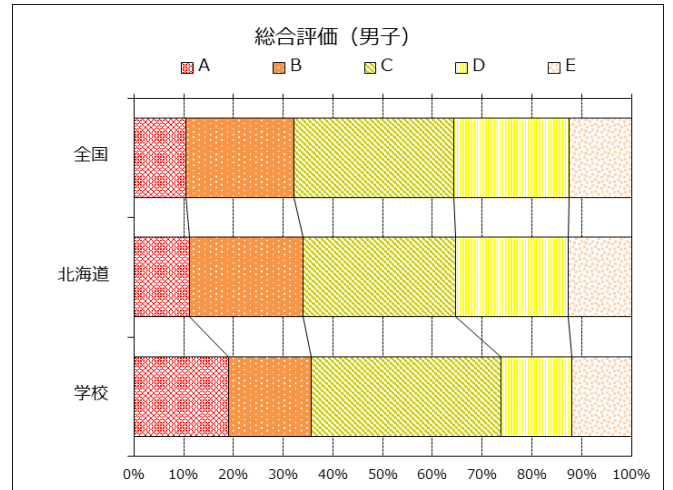
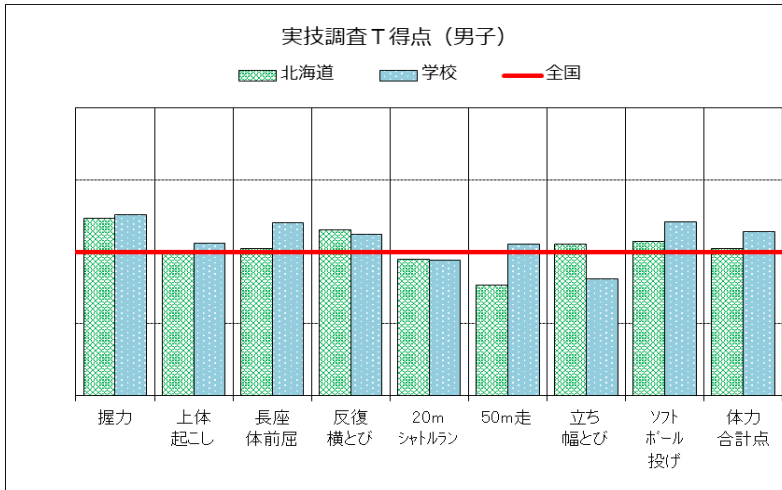
帯広市立豊成小学校 校長 平野 司

1 実施時期

令和5年5月～7月

2 本校第5学年の結果

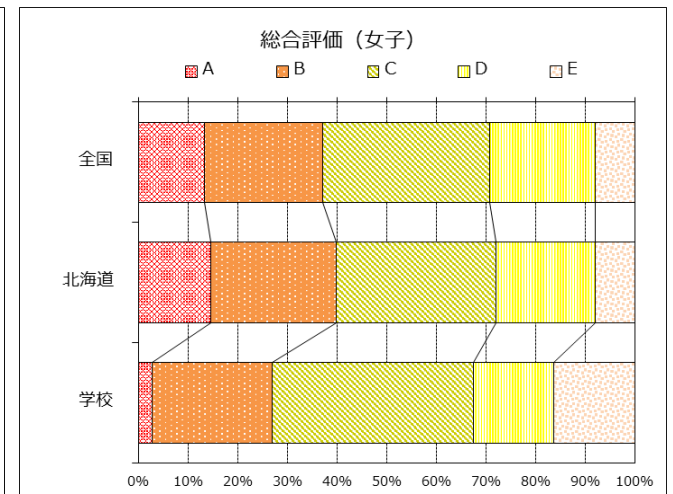
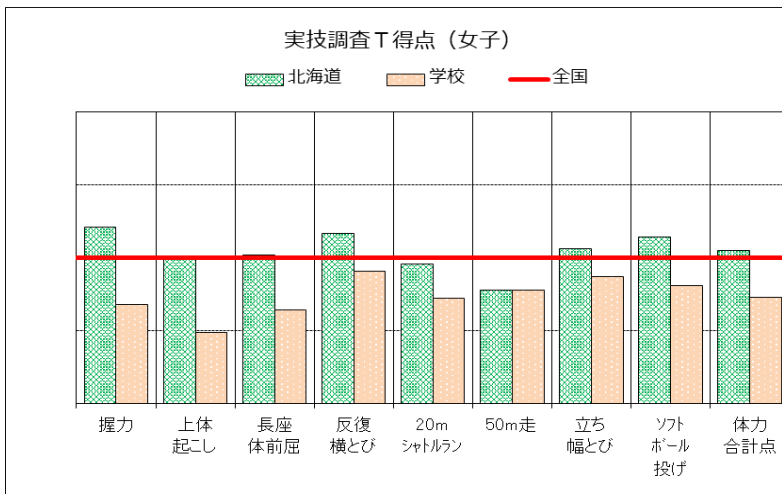
(1) 男子



男子の実技得点では、「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横とび」「50m走」「ソフトボール投げ」の6種目で全国平均を上回る結果でした。「体力合計点」においても、全国平均を上回っています。運動の特性として、「体の柔らかさ」や「力強さ」の面に長けていることがわかります。半面、「20mシャトルラン」と「立ち幅とび」は、全国平均を下回り、「動きを持続する能力(粘り強さ)」や「タイミングのよさ」という運動特性には伸びしろがあることがわかります。

右側の総合評価では、A評価の児童の割合が、全国、全道に比べ大きく、運動能力が高い児童が多いことがわかります。

(2) 女子

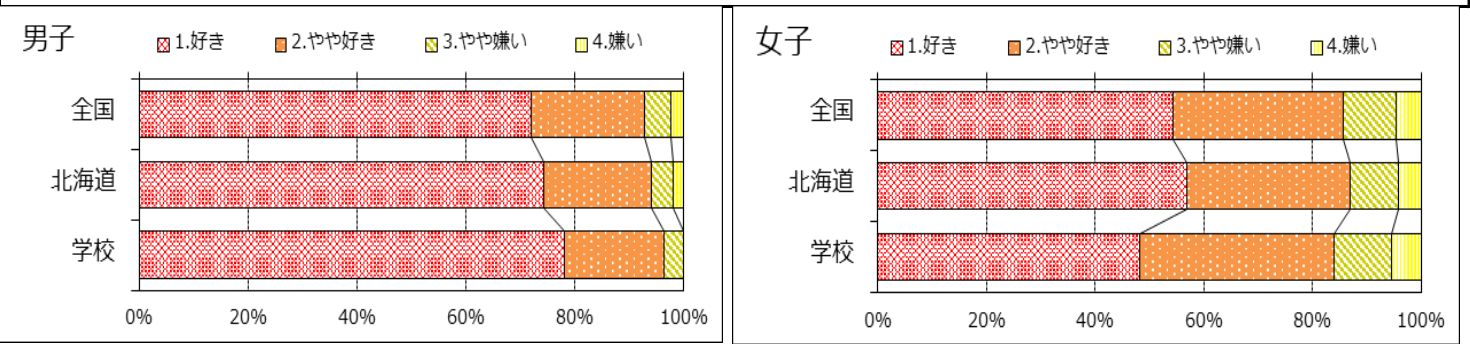


女子の実技得点では、全8種目および総合得点で、全国平均を下回る結果でした。特に、「握力」「上体起こし」「長座体前屈」等の「体の柔らかさ」や「力強さ」の運動特性に課題が見られました。また、「20mシャトルラン」や「50m走」のような走の運動でも全国平均との開きがあり、日常的な運動習慣や、学習への意欲付けが重要であると考えられます。

右側の総合評価では、A評価の児童の割合が、全国、全道に比べ少ないことがわかります。

(3) 児童質問紙の結果から

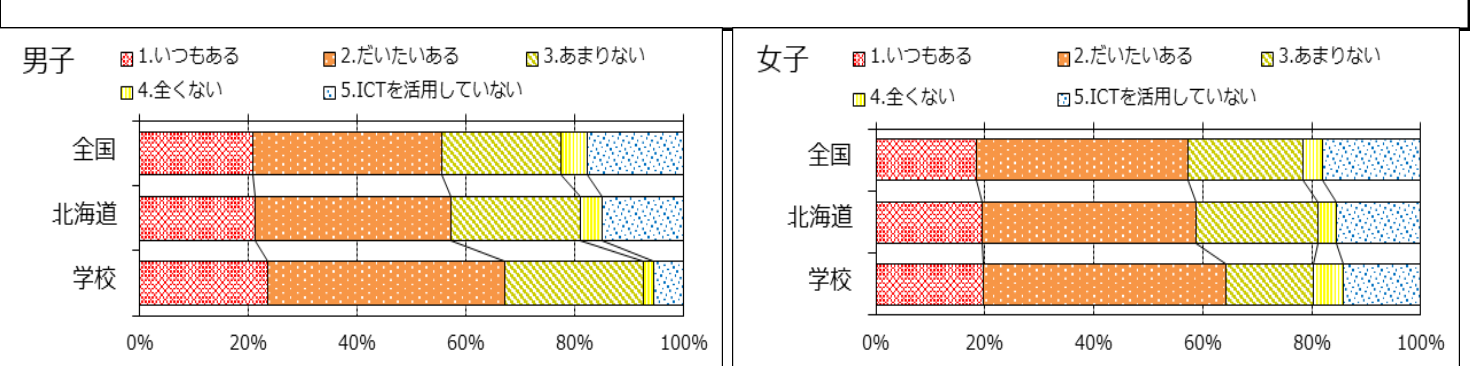
Q1.運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。



本校においては、男子は全国に比べ、運動やスポーツが好きな児童の割合が多く、女子は少ない傾向にありました。

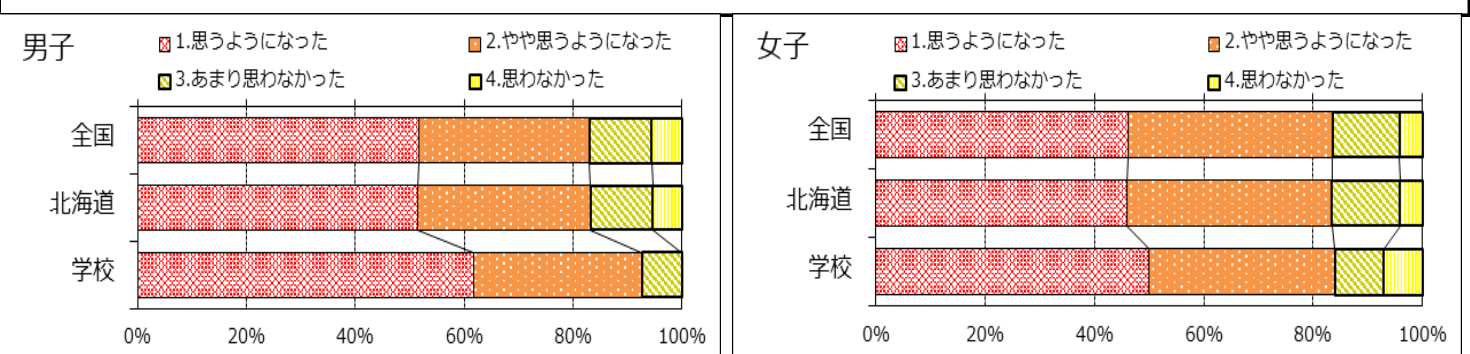
女子については、「今後どのようなことがあれば、運動したくなると思いますか」の項目に対し、「うまくできるようになったら」「自分に合ったスポーツが見つけれたら」「自分のペースで行うことができたなら」「気軽に運動できる場所があれば」の項目に回答する児童が多くありました。スモールステップで運動能力の向上を感じさせたり、日常的に楽しめる運動スペースを設けたりすることなどが、この項目で「運動が好き」と答える児童を増やすことにつながると考えています。

Q13.体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



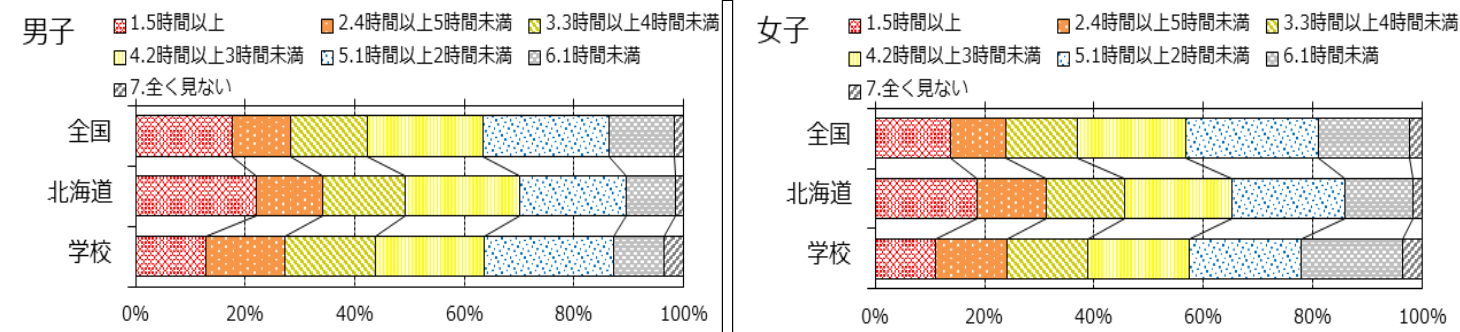
ICTを使って学習することにより、「できた、わかった」と感じる場面があると回答した児童は、男女ともに、全国の割合を上回る結果でした。日常的な学習において、動画で撮影した自分の動きを確認したり、端末を使って友達とよい動きについて話し合ったりする場面を積極的に取り入れてきたことが、児童の「できた、わかった」につながっていることがわかりました。

Q17.保健を学習して、もっと運動しようと思いましたか。



スポーツ庁の分析では、保健領域(体の発達やけがの防止など)の学習と、運動領域の学習とを関連付けて考えることができる児童は、運動能力・運動意欲が高い傾向にあるとの結果が出ています。本校では、保健の学習を、運動に活かそうと考える児童の割合が大きいことがわかります。今後も、保健領域を通じて健康増進への理解や、生涯を通じて運動に親しもうとする児童を育てていきたいと考えます。

Q8.平日(月～金曜日)について聞きます。学習以外で、1日にどのくらいの時間、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ていますか。



スクリーンタイムについては、ほぼ全国平均と同様の割合でした。下校後、一日に3時間以上画面を見ている児童が、男女ともに6割前後という結果であり、就寝時間や、翌朝の体調にも影響を及ぼすことが心配されます。児童自身が、余暇と健康の関係についてよく理解し、家庭生活で実践していくことが重要です。

3 結果から

実技項目の結果から、男子は”動きを持続する運動(粘り強さ)”や”タイミングのよさ”、女子では”体の柔らかさ”、”素早さ”、”動きを持続する能力(粘り強さ)”等の運動特性に課題が見られました。今年度は、昨年度の結果から「跳ぶ」「投げる」の運動に力を入れてきましたので、「投げる」については、一定の効果が見られたものと考えています。次年度は、課題のあった「跳ぶ」「走る」の運動について、児童が日常的に楽しみながら運動の機会を増やしていくこと、児童自身の感覚として、「できるようになった、楽しくなってきた」と成果を感じられるような学習活動となるように、授業改善に努めていきます。

また、児童質問紙では、保健領域の学習を、運動や生活に活かそうとする意欲が高い傾向がうかがえました。これを活かし、体力の向上だけでなく、スクリーンタイムを含めた生活習慣の改善を、児童自身の実践意欲で進めていくことができるものと考えます。引き続きの丁寧な指導と、家庭との連携により、健康な児童の育成に努めていきたいと考えています。今後とも、各家庭のご支援をよろしくお願いいたします。